

# 現代用語

# 1998

おかげさまで  
「現代用語の基礎知識」は  
創刊50周年を迎えました。

自由国民版 '98.1

# の基礎知識

別冊付録 保存版 現代用語 20世紀事典

特集 21世紀の地球的問題を考える

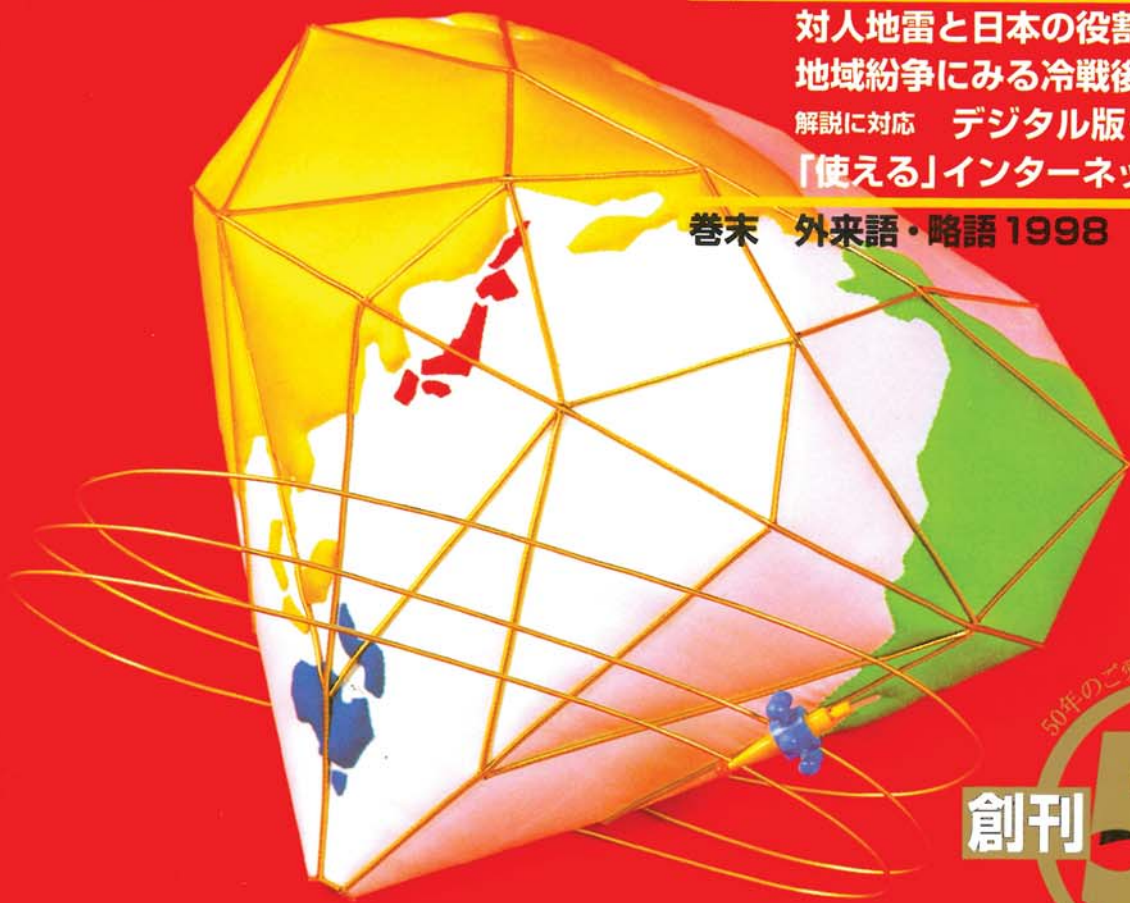
対人地雷と日本の役割

地域紛争にみる冷戦後の世界

解説に対応 デジタル版・世界アトラス

「使える」インターネットの時代

巻末 外来語・略語 1998



50年のご愛読に感謝いたします。

創刊

# 50

周年

# 対人地雷と日本の役割



●地雷撤去キャンペーンマーク  
"M"は対人地雷(mine)。その一部の落下は、撤去されつつあることを示す。毎年1回、対人地雷の撤去状況を把握し、マークの落下数を調整。

国際連合事務次長(人道問題担当)

明石 康(あかし やすし)



地雷は、世界の三分の一に匹敵する64カ国に埋設されており、その数は1億1000万個を下らないといわれています。今日、地雷は和平到来後も、世界各地で無事の市民の生活を脅かし、経済活動に支障をきたし、平和の構築をむなしものにしてしまっています。このように子どもや女性を標的にしたり、社会を混乱させる非人道性が強く指摘され、世界があげて取り組むべき大きな課題となっています。私は対人地雷について四つの「赤字」を指摘したいと思います。①毎年、200万個以上といわれる敷設数と10万程度といわれる除去数、②生産と除去の技術面でのギャップ、③生産と処理の費用面でのギャップ、④軍事的効用と人道的被害の差です。そこで、国連や世界のNGOは、①対人地雷の生産、備蓄、移動、敷設の全面禁止に向けての法的取組の促進、②除去作業の促進、③被害の回避教育と被害者への援助、④広範な啓発活動を行っています。

日本でも、政府はもとより、難民を助ける会を始めとするさまざまなNGOがこの問題の解決に尽力していますし、世界各国が、それぞれの立場から、対人地雷の全面禁止に向かって努力を重ねています。「平和国家」日本が果たしうるさらなる役割が期待されているところです。



# 対人地雷 全面禁止への動き

● 難民を助ける会 副会長  
● 埼玉大学 講師

吹浦 忠正

「沈黙の悪魔」世界の64カ国に1億1000万個も埋設され、誰かが踏むまで確実に人命を狙い続ける対人地雷。南北戦争から使用されたが、ベトナム戦争の頃からプラスチック製が主体となり、従来の金属探知機での探査が至難となった。冷戦後、内戦の多発で、被害者は、兵士より、農民、老人、女性、子どもに圧倒的に多く、それゆえ軍事問題としてではなく、人道問題として、地球的な取り組みが急務とされている。

1983年の特定通常兵器使用禁止・制限条約(CCW)で対人地雷の使用に一定の制限が加えられたがきわめて不十分で、被害はその後も拡大している。96年10月、カナダは97年までに、賛同国だけで全面禁止のための条約を結ぼうという「オタワ・プロセス」を提案、ベルギー、ノルウェー、オーストリア等が熱心にこれを推進、世界のNGOも強力なネットワークを組んで各国政府を後押しした。このため一挙に対人地雷の生産、備蓄、移動、使用の全面禁止が図られた。他方、アメリカは97年1月17日、ジュネーブの軍縮会議(CD)での討議を提案、「オタワ・プロセス」に対峙する形となった。しかし、故タイアナ妃が同じ1月、アンゴラの地雷原に立ち、全面禁止を訴え、これが5月のイギリスでのブレア政権の誕生直後の、対人地雷政策の変更を呼び、8月31日の事故死にともなう世界世論の盛り上がりとなった。CDは9月、正式議題とすることもないまま閉会、同じ9月、オスロで開かれた「オタワ・プロセス」条約検討会議には100余国が参加、同条約案が承認された。

アメリカは独自の削減策を発表したが、すでに1000万個を備蓄し、平成9年度予算で7億円の新規調達費を計上している日本は、何ら明確な政策提示をせず、各国の不信を招いた。折から、ICBLの対人地雷禁止国際キャンペーンとその指導者であるJ・ウィリアムズさんへのノーベル平和賞授与が発表され、運動は一層加速した。この上は、わが国が同条約にすみやかに調印・批准することが強く望まれる。

## ■ 対人地雷全面禁止への歩み

- 1980.10 「特定通常兵器使用禁止・制限条約」(CCW)で国際紛争での地雷使用を制限
- 1996.5 CCW再検討会議
- 1996.10 使用規制の一部強化
- 1996.12 カナダ政府がオタワ・プロセスを提唱
- 1997.9 国連総会で対人地雷禁止条約策定を求め、決議採択
- 1997.12 オスロ会議(1~18日) 対人地雷全面禁止条約採択(18日)
- 1997.12 オタワで同条約調印式



金網探知機で地雷を探



牛の世話をする、地雷にあった兄弟



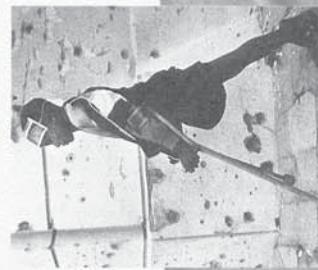
愛犬と一緒に学校へ行く少年

## ■ 地雷の種類

- ① PMN(イタリヤ) 重量600g、火薬量240g、1~3kgの圧力で爆発、最も民間人を多く傷つけた対人地雷といわれ、アフガニスタン、カンボジア、北イラン、イラン、ニカラグア、アンゴラ、モザンビークなどで多く見られる。
- ② 72A(中国製) 重量150g、火薬量約30g、3kgの圧力で爆発する、プラスチック製のため探知が困難、カンボジアで広く使用された。
- ③ POMZ2(イタリヤ) 重量2kg、火薬量75g(雷管に2kgの圧力がかかると作動、雷管が半徑25~30mの範囲に飛び散る威力を高めるため、木や金属の棒に差し込まれ、地上に固定されている)。
- ④ OZM72(イタリヤ) 重量3kg、火薬量75g、圧力増力で作動すると地雷そのものが空中に飛び上がった後炸裂、高速で破片が飛び散る。
- ⑤ OZM4(イタリヤ) 重量3.2kg、火薬量65g

## ■ 全面禁止条約調印予定国(1997年10月ICBL調べ)

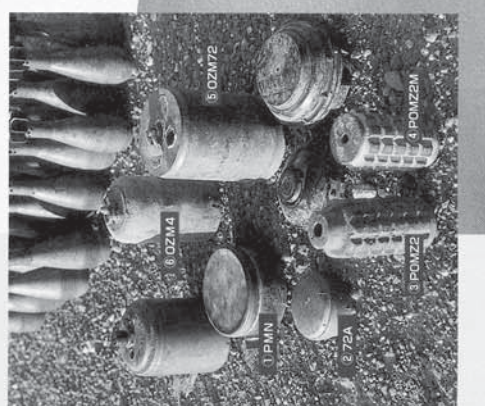
- |              |                  |                            |
|--------------|------------------|----------------------------|
| アイスランド       | スロバキア            | マケドニア                      |
| アイルランド       | セイシエル            | マラウイ                       |
| アラブ首長国連邦     | セネガル             | マリ                         |
| アルジェリア       | セントクリストファー・ネイビス  | マルタ                        |
| アルゼンチン       | セントセント=グレンティーン/属 | マレーシア                      |
| アンゴラ         | セントルシア           | メキシコ                       |
| アンティグア・バーブーダ | ソモモラ             | モーリシャス                     |
| イェメン         | チエコ              | モリタニア                      |
| イタリヤ         | チャド              | モザンビーク                     |
| ウガンダ         | チリ               | モルドバ                       |
| ウルクグアイ       | ドミニカ             | リヒテンシュタイン                  |
| エクアドル        | トルコ              | ルクセンブルク                    |
| エチオピア        | トリニダード・トバゴ       | ルワンダ                       |
| エルサルバドル      | トルクメニスタン         | ロシア(97.10.11エリツィン大統領が参加表明) |
| オーストリア       | ツバル              | セント                        |
| オランダ         | ニカラグア            | 南アフリカ共和国                   |
| カーボベルテ       | 日本               |                            |
| ガイアナ         | ニュージーランド         |                            |
| カタール         | ブルウェー            |                            |
| カナダ          | ハイチ              |                            |
| カボンド         | バチカン             |                            |
| カンボジア        | バハマ              |                            |
| キニア          | バハマニューキニア        |                            |
| グアテマラ        | バルバドス            |                            |
| グレナダ         | バルバドス            |                            |
| クロアチア        | ハンガリー            |                            |
| クウェート        | フィジー             |                            |
| コートジボワール     | フィリピン            |                            |
| コスタリカ        | フランス             |                            |
| コンゴ          | ブルキナファソ          |                            |
| コンゴ共和国       | ブルンジ             |                            |
| コンゴ民主共和国     | ベナン              |                            |
| サンピエ         | ペルー              |                            |
| サンマリノ        | ペルー              |                            |
| ジャマイカ        | ボスニア・ヘルツェゴビナ     |                            |
| ジンバブエ        | ボツワナ             |                            |
| スイス          | ボリビア             |                            |
| スウェーデン       | ボルトガル            |                            |
| スウェーデン       | ホンジュラス           |                            |
| スリナム         |                  |                            |
| スリナム         |                  |                            |
| スロバキア        |                  |                            |
| スロベニア        |                  |                            |



被災した少年



アンゴラ地雷原で(1997年1月15日)



# 情報社会

## 用語の解説

小林弘忠

立教大学・武蔵野女子大学  
非常勤講師



こばやし・ひろただ 1937年東京生まれ。早稲田大学教育学部卒。毎日新聞東京本社メディア編成本部長を経て、立教大学、武蔵野女子大非常勤講師。著書は「新聞記事ザッピング読解法」「マスコミVS.オウム真理教」など。

### introduction



#### ネットワーク社会に突入する日本

●インターネットは、新聞でその文字を見ない日がないくらい生活にとけ込んできた。職場、大学、家庭でも活発にとり入れられ、ホームページから通信教育サービス、商取引、決済と利用方法も拡大した。日本の場合、人口一〇〇万人当たりの普及率は世界第一七位と立ち遅れているが、それでもインターネットの利用者は推定五〇〇万人に増えた。

●ネットワーク社会の到来で、世界が共通して抱えている事柄が二つある。一つは、WTOの通信自由化交渉合意、OECDの電子商取引の推進提案等に見られる世界規模のネットワーク化に備えた国際ル

ールづくり、そして自国ルールと世界ルールをどう整合させていくかという点である。もう一つは、情報社会にありがちな急上昇中の電脳犯罪対策である。日本でもネットワーク上での定期検診データ漏洩、薬物の取引、詐欺、名誉棄損など新たな事態が派生、社会問題化している。

●世界の水準に比べ、やや水をあけられている日本は、国際競争力をつけるためのネットワーク振興策を図る一方、国際協調体制の確立、情報倫理教育の徹底などさまざまな課題を背負って二世紀に向かうことになる。



#### 98年のキーワード

##### ▼サイバービジネス

[cyberbusiness]

ネットワーク上でデータをやりとりしたり、仮想現実(↓別項)をつくらせて、客に種々の利用をしてもらうコンピュータ時代の新しいビジネス形態。仮想商店街(バーチャルモール)がその代表例。これはネットワーク上に商店街を出現させて商店、商品を選びながら買い物できるシステム。ビジネスの他にも仮想大学など各種の仮想社会ができていて、プライバシーの保護が課題となっている。たとえば仮想商店街では、客が立ち寄った店名や回数記録(アクセスログ)などの個人情報外部に流れ、DM用に無断で使われる類の問題がある。そこで郵政省の関連団体

としてサイバービジネス協議会がつけられ、プライバシー保護のガイドラインを作成し、適正なビジネス活動を推進している。

##### ▼サイバースクール

[cyberschool]

世界中の小中学生がインターネットのホームページでいろいろなテーマについて意見交換する世界規模の仮想電子学校。NECが一九九七(平成九年)開校した。参加校は日本、アメリカ、イギリス、ロシア、中国など一六カ国の二二校。科学、文化など幅広いテーマを生徒同士が討論したり、講師の著名な学者が解説したりして知識と交流を深めるのがねらい。

##### ▼スモールオフィス・ホーム

オフィス(SOHO)

[Small Office Home Office]

パソコンを使用中のパソコンの一室

や自宅でビジネスをする新しい職業形態。ワンルームを借りて、パソコン一台を置き、新事業を始めている人も増えている。もともと一九八〇年代、企業合理化に伴う失業者の増加とパソコン普及によってアメリカで活発になったといわれ、アメリカではSOHO人口は五〇〇〇万人と推定されているが、日本でもバブル崩壊後の企業のリストラによって、組織からの離脱が目立ち、SOHO志向が強まっている。インターネットなどを使って情報、ノウハウを共有して事業を進める方法が多い。家庭にあるパソコンで内職をして、その結果をメールで送るパソコン内職も主婦の間で広がっている。ともに一種のテレワーク(↓別項)といえる。

##### ▼ワクチン・バンク

[vaccine bank]

# 広告宣伝

## 用語の解説

小林太三郎

早稲田大学名誉教授  
埼玉女子短期大学学長



こばやし・たさぶろう 1923年群馬県生まれ。早大文学部卒、同大大学院修了。日本学術会議会員、日本広告学会会長。商学博士。著書は「広告管理の理論と実際」「現代広告入門」「広告」「産業広告」「広告のチェックリスト」「広告宣伝」「生きる広告」ほか。

### introduction



#### 広告費の推移および今後の重要課題

●わが国の一九九六年の総広告費は五兆七六九九億円で前年比一〇六・三%、前年から増加傾向が続き、年間通して好調に推移した。日本経済の景気回復基調、企業業績の改善、情報・通信分野の市場拡大、自動車業界の積極的な販促運動のほか、景品規制緩和、衆議院選挙、消費税率引き上げ前の駆け込み需要、新会社発足などがプラス要因となつて、広告活動が広範囲で活発に。テレビ広告の活況が牽引し、マスコミ各媒体が前年より高い伸び。「情報・通信」（電話、パソコン）、「自動車・関連品」をはじめ、多くの業種で広告費が大幅な伸び。

●すべての媒体で前年に引き続き広告費が増加。テレビが活況持続、SP広告は前年並みの伸び。新聞（前年比一〇六・二%）——年間通して好調に増加。自動車の広告増加で、地方紙が中央紙よりやや高い伸び。雑誌（前年比一〇八・八%）——前年をさらに上回る高い伸び。創刊活動が活発で、女性誌、パソ

コン誌が拡大。ラジオ（前年比一〇四・八%）——前年の伸びを上回った。FMが引き続き好調。テレビ（前年比一〇九・二%）——スポットが活況持続。規制緩和の進展、消費税増税前の駆け込み需要などがプラス要因。SP（前年比一〇三・五%）——前年（前年比一〇三・六%）並みの伸び。「DM」「折込」が引き続き好調。全般に年の後半に鈍化。ニューメディア（前年比一〇〇・一%）——ケーブルテレビの伸展で二年連続二けたの伸び。

●九七年におけるわが国主要広告主二一五社の広告関連重要課題は、一位・販売部門の連携と実施の強化、二位・ブランド広告の戦略的効率運用、三位・総合的企業イメージの強化確立、以下、トータルな広告宣伝予算の効率化、マーケティング連動の体制づくり、トップの明確な意志疎通強化、効果測定と評価システムの検討、広告会社等との連携強化と活用、全社的広報機能への参画と遂行、の順である。



#### 98年のキーワード

##### ▼バナー広告

[banner, banner advertising]

広告界で使われるバナー広告には、POP広告分野のプラスチックや紙や布製で作られた長方形、三角形、半円形の旗広告と、インターネット広告の分野のバナー広告、つまり他社のホームページにメッセージ・写真・イラストなどを入れ込んだ帯状のバナーメッセージ広告の二種類がある。また、ジャーナリズムの第一面の全段抜き大見出し（Banner）

line, screamer, streamer)としてこの用語が用いられることもある。インターネット広告の一種としてのバナー広告の効果は、インプレッション効果とレスポンス効果の二つが考えられる。前者はバナーの露出効果で

限られていて、動画の利用は露出を刺激する力がある。後者の効果はバナーを見てユーザーがクリックする結果の成果を意味する。広告主サイドへのアクセス数がこの効果を示すものである。トヨタ自動車は一九九六（平成八）年一二月発売の新車「カムリグラーシア」で、

インターネット広告を展開したことがある。一月中旬はインターネットと一部の雑誌だけで広告。バナー立ち上げ一カ月で約一七〇件の購入検討の問い合わせ（セールス・リード）があつたようだ。バナー広告のインパクトの増大策、その技法、管理方法などの研究がこれからは次第に高まるようになるのは必至。なお、

バナー広告の認知度について一言。情報通信総合研究所（東京）が、九六年一〇月一—二十五日まで、研究所のホームページで調査したところによると、約一四〇〇名のインターネット利用者の回答（広告掲載のペー

# 世界政治

## 用語の解説

中西輝政

京都大学教授



なかにし・てるまさ 1947年大阪府生まれ。京大法学部卒。ケンブリッジ大学大学院修了。スタンフォード大学客員研究員、静岡県立大学教授等を経て、現職。著書に『国際情勢の基調を読む』『もっとスマートに大国日本』『アジアはどう変わるか』『帰還する歴史』など多数。

国際情勢

### introduction



#### 国際社会の一体化は進むのだろうか

●冷戦後の世界政治は、三つの大きな要因によって動いている。一つは、冷戦が終わった後、唯一の超大国として一層大きな影響力をもったアメリカの世界におけるリーダーシップがどうなるか、という点。二つ目は、各地域における秩序の形成が、どのくらいうまくゆか、という点であり、三つ目は、そうした動きと併行して、経済・政治・国際機構など、世界政治のいわば周辺領域における協力と協調のゆくえである。

●この一年を振り返ってみると、デンバー・サミットやNATOの東方拡大の実現、中南米へのクリン

トン訪問など、アメリカの指導力が、好調だった米経済の状況と相まって、一段と高まった印象が生まれた。しかし、湾岸戦争以来続いてきた中東和平の動きは、繰り返し深刻な行き詰まりを経験している。EUの通貨統合の動きやASEAN首脳会議などに見られるように、地域主義の流れも増している。他方、アジア経済の変調や香港返還後の中国の行方の不透明さには、国際社会がより一体化しつつある趨勢のコストという面もある。国連安保理改革がともかく進む「流れ」となるか、これも国際社会の一体化の試金石である。

#### 新秩序をめぐる動き

##### ▼覇権安定論

世界の政治・経済両面にわたる秩序を、一つのシステムとして考え、これを「世界システム」として見たとき、その構築と維持を指導する国を「覇権国」とよぶことがある。一般には、覇権とは、武力など強制的手段によって支配することを指すが、今日、国際政治において使われるときは、必ずしも悪い意味ではなく、一国による特定の政治・経済面での世界秩序を指導することを意味する場合がある(二カ国以上による覇権は「共同覇権」とよばれる)。その手段として、もちろん、優越した軍事力が重視されるが、同時に秩序を支える理念的要素も注目される。歴史的

には、一六世紀のスペイン帝国、一七世紀のオランダ(これについては論争あり)、一八一―一九世紀の大英帝国などが覇権国とされ、二〇世紀はもちろん、アメリカによる覇権の時代といわれる。そして、この覇権国が交代する時期(覇権の移行期)に世界秩序は不安定となり、しばしば大戦争が起こっている。しかし、いったん、ある国によって覇権が確立したあとは、比較的長期にわたり世界システムは安定すると唱える見方がある。一九八〇年代末から冷戦の終焉やアメリカの衰えに直面して、現在、世界は大きな覇権移行期に入っているのではないかと考えられている。しかしアメリカに代わって覇権国となる国はあるのか、という疑問があり、①アメリカを中心とする先進国による共同覇権の必要を説く議論、②中国がいずれアメリカに取っ

て代わると見る説、③そもそも、もはや覇権という概念自体が二一世紀の世界政治では意味をなくすと考える立場などがあり、現代の国際政治をめぐる一つの論争点となっている。

##### ▼エンゲージメント政策

冷戦後のアメリカの世界戦略の方向を説明する言葉。エンゲージメント(engagement)すなわち、「取り込み」の意。米ソの対立構造が消滅した世界で、唯一の超大国となったアメリカは国際政治においていかなる役割を果たすべきか、ブッシュ政権以来多くの議論が行われてきた。その中で、一九九四年と九五年度の二年間にわたりアメリカ政権は、「取り込み(エンゲージメント)と拡大(エンライズメント)をめざす国家安全保障戦略」と題する文書を公表している。当初、冷戦後のアメリカは、民

# 気象

## 用語の解説

倉嶋 厚

気象キャスター

くらしま・あつし 1924年生まれ。中央気象台付属気象技術官養成所卒。鹿児島気象台長、NHK解説委員を経て、フリーの気象キャスター。著書は「暮らした気象学」「日本の四季」「モンsoon」など。



火山灰による航空機への被害を防止・軽減するために一九九七(平成九年)度から気象庁の航空路火山灰情報センターが提供を開始した情報。気象衛星の画像や数値モデルによる火山灰の拡散予測などを利用して、北

### ▼航空路火山灰情報

[Volcanic Ash Advisory]

民間気象会社(日本気象協会)が一九九七(平成九年)四月から始めた紫外線の強さに関する情報。人の顔付近の高さ(一五〇センチ)における紫外線の強さを表すUV指数を算出して行う。全国の約八五〇地点を対象に一日の紫外線量や一時間ごとの紫外線量を午前五時と午後五時の一日二回発表する。

### ▼紫外線情報

### 98年のキーワード

●気象の分野における最近の動向として、国内的には民間による気象情報サービスの充実、国際的には気候変動などの地球環境問題への取り組みの進展を挙げることができる。

●気象業務法が改正され、民間の気象情報サービスが本格的に開始されてから二年余が経過した。すでに二〇〇〇名を超える気象予報士が誕生し、民間の気象業務の中核として活躍している。成長著しいインターネットには、多くの民間気象会社などがホームページを開設し、レジャー気象情報・局地気象情報などこれまでになかった多彩な気象情報を提供し

### 気象情報サービスの多様化・発展

ている。インターネットの他にもケーブルテレビ、パソコン通信、電話サービス、ファックスサービスなど多岐にわたる情報伝達手段が利用され、民間による気象情報サービスは順調に発展している。

●地球の温暖化、オゾン層の破壊など地球環境問題に対しては国際的連携のもとに政策的な取り組みが進められている。一九九七年一二月の地球温暖化防止京都会議もその一環である。気象の分野では、温室効果気体やオゾン層などの観測、あるいは気候モデルを用いた温暖化の予測など技術的な開発が進められており日本も多くの貢献を行っている。

西太平洋および東アジアにおける火山の活動状況や噴煙に含まれる火山灰の広がりや監視し、各国の気象台などを通じて航空機へ情報を提供する。

### ▼局地数値予報モデル

集中豪雨(雪)など別項など局地性の強い現象を精度よく予測するための解像度の高い数値予報モデル。現在の天気予報で用いている数値予報モデルは水平スケールが二〇〇キロメートル以上の現象を対象としているが、集中豪雨(雪)などを表現するために一〇〜数十キロメートルの解像度が必要になる。気象庁では高解像度の数値予報モデルを数年後に実用化することを計画している。

### ▼運輸多目的衛星(MTSAT)

[Multi-functional Transport Satellite]

現在稼働している静止気象衛星「ひ

まわり5号」(別項)の後継機として運輸省(気象庁と航空局)が一九九九年(平成十一年)に打ち上げを予定している多目的衛星。気象観測等の機能と航空管制等の機能を合わせ持つ静止衛星で、それぞれ単独の衛星を打ち上げるのに比べて経費の節約や静止軌道位置の有効利用を図ることができる。

### ▼地球温暖化予測情報

一九九五(平成七年)年度から五年計画で気象庁が提供を開始した地球温暖化に関する予測情報。気候モデルを用いて数種類の二酸化炭素排出シナリオ(見通し)に沿った今後一〇〇年間の地上気温、降水量、海面水位、海面水温などの推移を予測している。九六年七月に提供された予測情報一号には、年々一%ずつ大気中の二酸化炭素が増加した場合の予測計算結果が掲載されている。

# 社会風俗

## 用語の解説

神足裕司

コラムニスト



こうたり・ゆうじ 1957年広島県生まれ。慶応義塾大学法学部卒。『恨ミシュラン』『おたく五』など。

### 風俗・流行

▼イケてる  
吉本興業のお笑いコンビナイナイ(ナインティナイン)が、番組タイトル『めちゃ×2イケてる!!』(フジ系)に用いて同番組のヒットとともに流行した。東京弁に翻訳すれば、かつこいい、あるいは「感性に優れている」という意味に近いが、その意味を思い悩むこと自体が「イケてない」ことになる。流行語の短命化が進む中、意味を曖昧に保つことは流行語自身の延命手段になった。

▼タイガーウッズ  
アメリカのプロゴルファー、マスターズトーナメントで史上最年少の優勝を飾り米タイム誌が「米国でもっとも影響力のある二五人」に選んだ。元軍人の父に英才教育を受け「五歳で大人をカモにした」他、多くの伝説をもち、その父の「伝道」によってキリストや釈迦に匹敵する偉人だとジャーナリズムももてはやした。が、いっぽうでウッズブームを爆発させたのはシューズメーカーのナイキ。タイ出身の母親ほかマイノリティーの血筋が、世界的広告戦略に合致していた。「このままでは殺される」というほどのファンの熱狂がたたってかシーズン後半は奮わず。

▼たまごっち  
「たまご」と「ウォッチ」からの造語。昨年の「プリクラ」(プリントクラブ)に続くデジタル玩具のヒット商品。宣伝予算をかけなかったため、一九九六年末から口コミで広まり、発売元バンダイによれば「生産が追いつかなくて」品不足が続き定価一九八〇円の品物に三〜五万円ものプレミアがつき、歓楽街でも「たまごっち」をエサにナンパする男が続出。人気の秘密は名前通り持ち運びやすい卵形の大きさと、シンプルな操作性にある。卵から生まれた謎の生物を、食事、掃除の世話、遊びなどで育てるデジタル・ペットだが、育て方によって「おやじ

### introduction



### 世の中など、どうにでもなれ!

●こうして用語で一年を振り返ってみると、それまで見えなかった時代の表情を、塊の中から掘り出したような気分になる。ちょっと大袈裟か? いやちつとも大袈裟ではない。  
●掘り出してみていちばん胡散臭く、実態の見えないのが政治だ。ペルー日本大使館占拠事件で幕を開けた今年、外務省でアンパンを配った他は、いっさいの決断を避け、フジモリ大統領の結果オーライにまんまと乗った橋本首相は、その後も臓器移植法案への投票をほおっかむりしてやり過ごし、挙げ句に第二次内閣で派閥力学に押されて佐藤孝行氏を入閣させ辞任させた。世間では、これをリーダーシップが足りないと言いが、政治家全員があきれられるほど自分をもっていない。与党も野党も、あらゆる行動がただの人気取りで、どっちにつけばいいかわ

からない場合は逃げる。どこかへ逃げるのだ。  
●血の通わないお上にたいして、民の気持ちははつきりしている。怒っている。これまでになくほど民は怒って、世の中などどうにでもなれと焼けばちになつていく。町は通り魔で物騒になり、フトコロは淋しく、その日暮らした。自転車ですれ違ひざま、女性にコンクリートブロックをぶつける若者がいる。高校生が包丁を握って銀行へ押し入り、なんの計画もなく逮捕される。むしろくしゃして刺した。今だけだと思つて売春した。そのような無軌道な少年少女を、たしなめる倫理観がこちらにない。  
●そんなわけで今年の社会風俗用語は怒りに満ちている。トシのせいだろうか? そうかもしれない。だが、あれだけスキャンダルにまみれた世界の王妃が、逝つてしまつたとやはり涙が出た。



# 世界潮流

## 用語の解説

角間 隆

トレンド・アナリスト



Trend

かくま・たかし 1936年大阪市生まれ。東大卒。NHK報道局プロデューサー、ディレクターなどを経て、ノンフィクション作家として活躍。著書に『CIA謀略の全貌』『日本の支配階級 財界編』『世界技術最前線』『情報戦争』らつ腕ブッシュが世界を変える』など多数。

### 風俗・流行

#### 千年王国への序章

##### ▼西暦二〇〇〇年

[The Year 2000, AD 2000]

今からちょうど二千年後に、西暦二〇〇〇年の正月元日がめぐってくる。既に世界中の一流ホテルは予約で満杯になっており、祝賀用のシャンパンや高級ワインも売り切れ寸前だといふから、どんなバカ騒ぎが演じられるか、想像に難くない。しかし、本当の「二一世紀の幕開け」は二〇〇一年の一月一日午前〇時〇〇分からだから、あくまでも二〇〇〇年は「二〇世紀最後の年」であるに過ぎない。なぜなら、キリストの生誕年を「西暦元年」と定めて、〇からではなく一から計算し始めているから、二〇〇〇年はAD (Anno Domini=キリスト紀元)の第一九九九番目の年でしかないからである。にもかかわらず、人類は、特に欧米人は、「西暦二〇〇〇年」を何故かくも固執し、重視するのであろうか？ 問題の「コンピュータ・パニック」が念頭から離れないからであろうか？ いや、やはり、「ミレニアム」(千年紀)という思いが、どうしても頭にちらつくからであろう。

##### ▼千年王国

[The Millennium]

「ミレニアム」「至福千年」「キリストが再臨してこの地を統治する千年間」。「新約聖書」の最後の部分(ヨハネ黙示録)には次のように書かれている。「第一の復活にあずかる者は、幸いな者、聖なる者である。この者たちに対して第二の死は何の力もない。彼らは神とキリストの祭司となつて、一〇〇〇年のあいだキリストと共に統治する」

すなわち、正義と幸福と繁栄が約束された理想の黄金時代が一〇〇〇年間も続くという「千年王国」の思想が源泉である。いつやってくるか、ということについては「最後の審判」の後というだけで、正確な日時はどこにも何にも記されていない。そのため、様々な推論や憶測がさかんに飛び交うわけであるが、かのノストラダムスもそうであったように、やはりキリスト教圏では、どうしてもキリストの「西暦二〇〇〇年」に注目が集まってくる。しかも、その直前に襲ってくるという「ハルマゲドン」(Haramagdon)なる終末思想が人々の恐怖や不安をいやがわうにもかき立てるから、一〇〇〇年に一度の「大世紀末」を無事にのりきることができた、という喜びと安堵感は何ものにも代え難いであろう。

##### ▼大世紀末

[Grand Fin de Siecle]

「千年に一度の世紀末」。普通の「世紀末」(ファン・ド・シエクル)は一〇〇年ごとに訪れてくる。しかし、われわれがいま体験している二〇世紀の世紀末は、一〇〇〇年に一度しかない「大世紀末」である。なぜなら、四桁目の数字を書き替えるのは一九〇〇年代(二〇世紀)だけであり、次のチャンスは二九〇〇年代、すなわち今から一〇〇〇年後にしか巡ってこないからである。人間の一生は一〇〇年たらずであるから、普通の世紀末さえ体験できない人も多いのには、われわれはいま、一〇〇〇年に一度しかない「大世紀末」を迎えようとしているのだ。

人類史を振り返って見ると、世紀の終わりに必ずといっていいくらいエポック・メイキング(画期的)な大事件が起こっており、それを一つのきつかけとして歴史そのものが大きく転換して

いる。一四九二年のコロンブスの新大陸到達など、その典型的なものといえよう。だからこそ、人々は世紀末が巡ってくるたびに大きな不安や動揺を覚え、様々なカルトにすがり、オカルトに熱狂して、自ら大破局(ハルマゲドン)の奈落に身を投じ、ブラック・ホールに吸い込まれて行くようなめまいを感じるのであろう。

##### ▼二〇〇〇年超危機

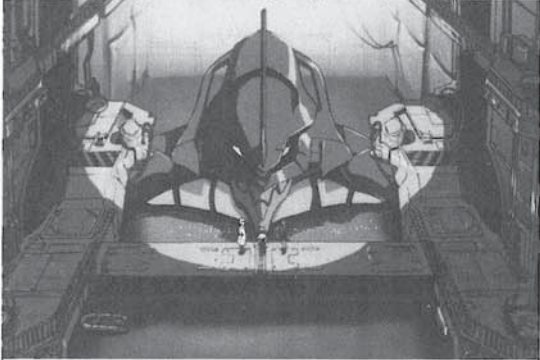
[Year 2000 hyper-crisis]

「コンピュータ・パニック」「二〇〇〇年問題」。二〇世紀の中葉に発明された「コンピュータ」(ラテン語で「共に考える」の意)はプロト・タイプ(原型)の「エニアック」ですらメモリー容量にして二〇〇ピシもなく、西暦年号を四桁も打ち込むと大きな負担になる、という程度の機械だった。そのため、コストや容量を節約するために「西暦年号の前二桁の一九という数字は省略しよう」と安易に考えて、プログラムを設定してしまつた。しかし、いま西暦二〇〇〇年を目前に控えて、たとえば二〇〇一という年号を自動的に一九〇一と読み替えてしまうと、いう問題が発生し、カードが使えなくなつたり、コンピュータが狂つて暴走したり停まつてしまふ……という事故が、早くも頻発し始めている。「このまま行くと、一九九九年の大晦日から二〇〇〇年の元旦にかけて大惨事が起こりかねない」というので、目下プログラムの書き替えなどに大わらわとなつているが、中には時間的に手遅れというケースもあり、大きな社会問題に発展しつつある。

#### ベル・エポックへの離陸

若者たちにも着日に浸透しつつあり、はやや世早中の至る所でボランティア

験から、他業種の社外取締役はただの飾り物にしかならないと指摘した。米国では機能している「社外取締役制度」がなぜ機能しないのか、という問題提起になっていれば良かったのに、とは経済記者の声。



↑「エヴァンゲリオン」  
©GAINAX/Project Eva・テレビ東京  
↓「もののけ姫」©1997 二馬力 TNDG



力によきに驚かされてしまう。

### ▼新世紀エヴァンゲリオン

若者たちの間で、「エヴァンゲリオン・ブーム」が巻き起こった。このSFアニメ作品は、一九九七(平成九年)の春休みと夏休みに二度にわたって劇場版映画が制作公開されて大ヒットし、さらにビデオ、LD、CD、コミックス、フィギュアモデル、トレーディングカードなど多様なグッズが大量に売れて、二〇〇億とも三〇〇億円ともいわれる巨大マーケットを生み出した。

「エヴァンゲリオン」(略称エヴァ)は、もともとは一九九五年一〇月から九六年三月まで、テレビ東京系列で放映されたSFテレビアニメ番組。企画制作は「不思議の国のナディア」などを世に送り出したGAINAX。監督は庵野秀明。テレビ番組の平均視聴率は七・一%で、お世

辞にも高いとはいえない。しかし、放映時から「エヴァ」はアニメファンの強い関心を集め、その作品の難解さゆえに、さまざまな謎解きの論議が巻き起こり、多様な謎解き本や研究書が出版されたのである。

物語は、謎の地球の敵「使徒」の襲撃に対して、国連の謎の特務機関「ネルフ」は有機体ロボット「エヴァ」の迎撃で対抗しようとする。

「エヴァ」にシンクロ(同調)できる縦横有資格者は、一四歳の少女少女に限られ、しかも幼児体験による深い心の傷(トラウマ)のために現実世界とシンクロできない者に限られる。

一四歳の少年碇シンジは、こうしてエヴァ初号機を操縦し、使徒とはげしく戦う。一〇代の若者たちは、この「エヴァ」世界に没入することによって、主人公のシンジを媒介にして「自分探しの物語」を体験

したということが出来る。

### ▼「もののけ姫」

宮崎駿監督の長編アニメ映画「もののけ姫」(スタジオジブリ製作が、一九九七(平成九年)夏、全国の東宝系映画館で一斉公開され、子供連れファミリーから若者層まで幅広い観客を動員して大入りを続け、八月末には配給収入七二億円を突破して、邦画の新記録を樹立、さらに洋画を含めた映画興行史上のトップに躍り出る勢いを示している。

このアニメ映画は、スタジオジブリが膨大な制作費を惜しげもなく投入し、従来のセルアニメーション技術と新しいデジタル技術を融合させて、究極の映像美を追求した、文字どおり宮崎アニメの集大成ということができる。もっとも、このアニメの魅力は映像の美しさとアクションの迫力だけに求めることはできな

い。激動する時代の混沌の中で、自然と人間、野生と文明がせめぎあいながら、人間はどう生きることが出来るのか、を根本的に問いかける、宮崎監督のメッセージに、子供や若者が共感したからにはほかならない。物語の時代背景は、日本の中世から近世に移る混沌の時代。北のかくれ里をタタリ神が襲う。その神を倒した少年アシタカは、その呪いを断つために西への旅を続ける。そこには森を破壊しつつ文明を開くエポシ御前率いるタタラ製鉄集団と、森を守るために森を侵す人間をばげしく憎む山犬に育てられた「もののけ姫」

少女サンとの非妥協的な対立と戦いがあった。このアニメ映画は、少年アシタカと少女サンとの美しい恋愛を縦糸に、文明を開く人間と自然を守る荒ぶる神との戦いを横糸にダイナミックに織りなされた壮大な映像叙事詩である。ここには、単純な勧善懲悪の図式はなく、楽天的なエコロジー志向の自然賛美も、人間の進歩史観擁護もない。人間でありながら人間を憎む野生の少女サンに、サンを愛しながら野生に同化できない少年アシタカは「生きろー」とただ絶叫するだけなのである。

### ▼「こどものとも」五〇〇号

#### 達成

福音館書店が発行する幼児向け月刊物語絵本。一九五六(昭和三二)年四月に、国内初のペーパーバック型の月刊絵本として創刊、九七(平成九年)一月一月号で五〇〇号を迎える。素

人を積極的に起用したり、童画家ではない安野光雅や佐藤忠良や赤羽末吉などの画家を起用したりして、ユニークな創作絵本を中心に、ある時は一般に知られていないアジアの物語を紹介して、多彩な企画編集を進めてきた。その中から、特に評価の高い本を、ハードカバー版「こどものとも傑作集」として一〇〇冊ほど復刊。とくに、中川李枝子(当時保母)作、山脇百合子(中川さんの妹、当時大村姓の大学生)絵の「ぐりとぐら」は子供たちに圧倒的に支持され、その後シリーズ化されて、世代を超えて読み継がれている。

### 遊びと流行

#### ▼ポケモン

一九九六年から九七年にかけて、ポケモン・ブームが爆発的に発生し、幼児から小学生までの子供たちの心を強くとらえた。ある意味で九七年の子供文化は、ポケモン一色に彩られたといっても過言ではない。

ポケモンは、任天堂の携帯用液晶ゲーム機ゲームボーイの人気ソフト「ポケットモンスター」の略称。ゲームの内容は、きわめて単純。草原や森や池に隠れている一五一種のモンスターを順に捕まえて、飼いならして成長させ、自分のモンスター図鑑を作っていくというゲームで、昆虫採集と切手収集の楽しさを合体させて液晶画面の中で遊ぶというも

いつでもとも人気のある政治家といわれるが、この「舌禍事件」により痛手を被った。党内からは「ご都合主義、理念放棄」という非難が高まり、「連合・緑の党」からも極右を利するだけとの批判を浴びた。